

令和4年10月8日（土）11:30～12:10

第81回 日本公衆衛生学会総会

# 健康危機管理におけるDHEAT活動、 活動検証からの教訓と今後の展望

熊本県人吉保健所 服部 希世子

令和3年度・4年度 厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）

「実践を踏まえた災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）の質の向上、

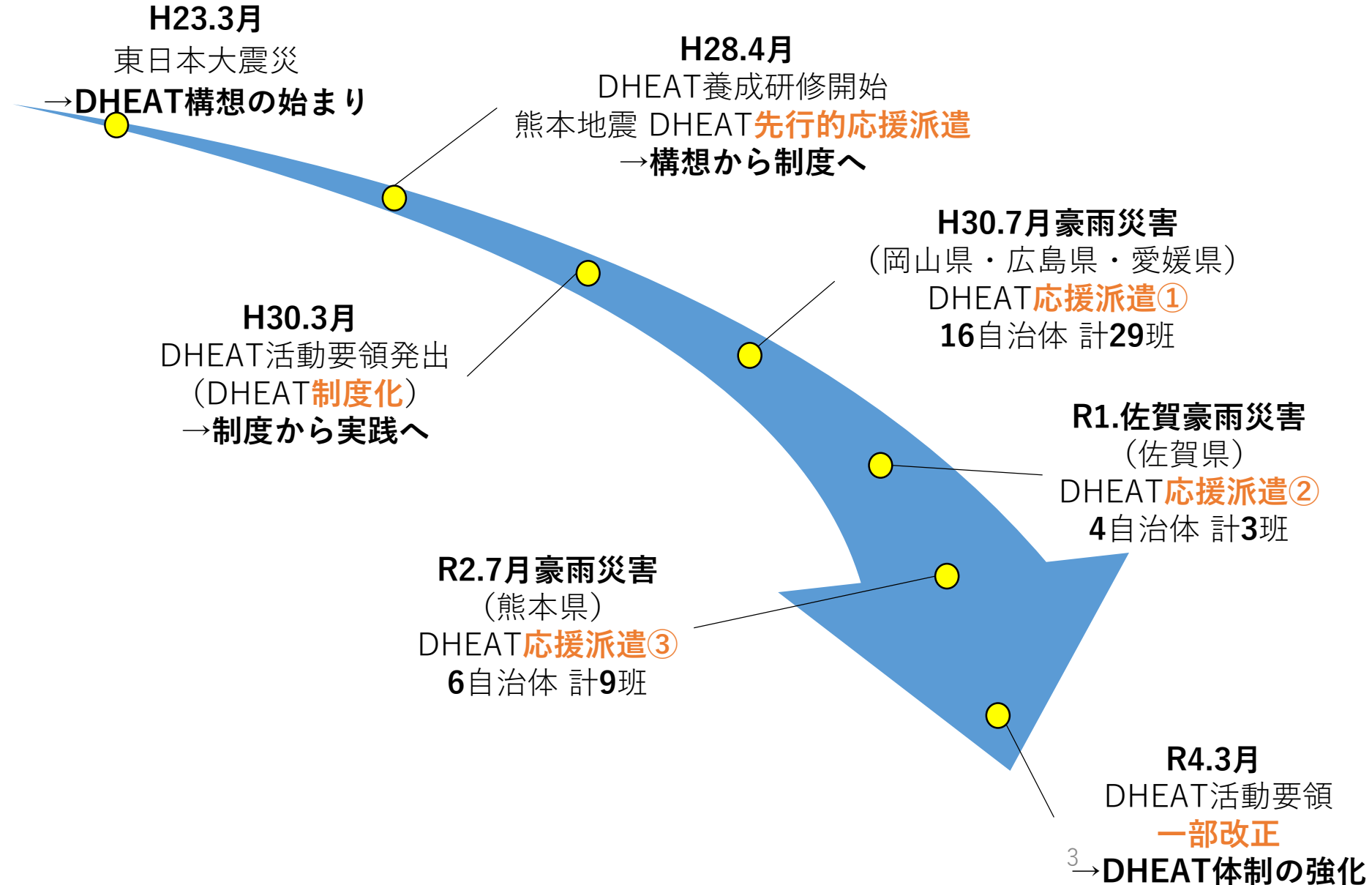
構成員、受援者の技能維持に向けた研究」研究班

# 日本公衆衛生学会COI開示

発表者名：服部 希世子

演題発表に関連し、発表者に開示すべきCOI関係にある  
企業などはありません。

# DHEAT活動 これまでの歩み



# DHEAT応援派遣調整の現状

## 1. DHEAT応援派遣実績

(全国保健所長会健康危機管理委員会・厚生労働省・熊本県の資料より)

災害	派遣先	派遣先 活動場所	DHEAT 総数	(全国保健所長会 地方ブロック内訳)							
				九州	中国・ 四国	近畿	東海・ 北陸	関東 甲信越静	東京	東北	北海道
平成30年 7月豪雨	広島県 岡山県 愛媛県	保健所 (市町村)	16自治体 7チーム 29班	長崎県(3) 大分県(1) 熊本県(1) 北九州市(1) 熊本市(1)	徳島県 (1)	和歌山県(1) 大阪府(3) 大阪市(2)	三重県(1) 愛知県(1)	千葉県 (2)	東京都 (3)	青森県 (2)	北海道 (3) 札幌市 (3)
令和元年 8月大雨	佐賀県	保健医療 調整本部、 保健所	3自治体 2チーム 4班	長崎県(1) 大分県(1) 熊本県(2)	—	—	—	—	—	—	—
令和2年 7月豪雨	熊本県	保健所 (市町村)	6自治体 4チーム 9班	長崎県(3) 佐賀県(2) 宮崎県(1) 熊本市(1)	島根県 (1)	—	三重県 (1)	—	—	—	—

## 2. 全国DHEAT応援派遣調整結果 (派遣可の回答率)

(厚生労働省・熊本県提供データ)

○令和元年8月の大雨；**29自治体 (44%)** (内訳；西日本 **15自治体**、東日本 **14自治体**)

○令和2年7月豪雨災害；**13自治体 (20%)**

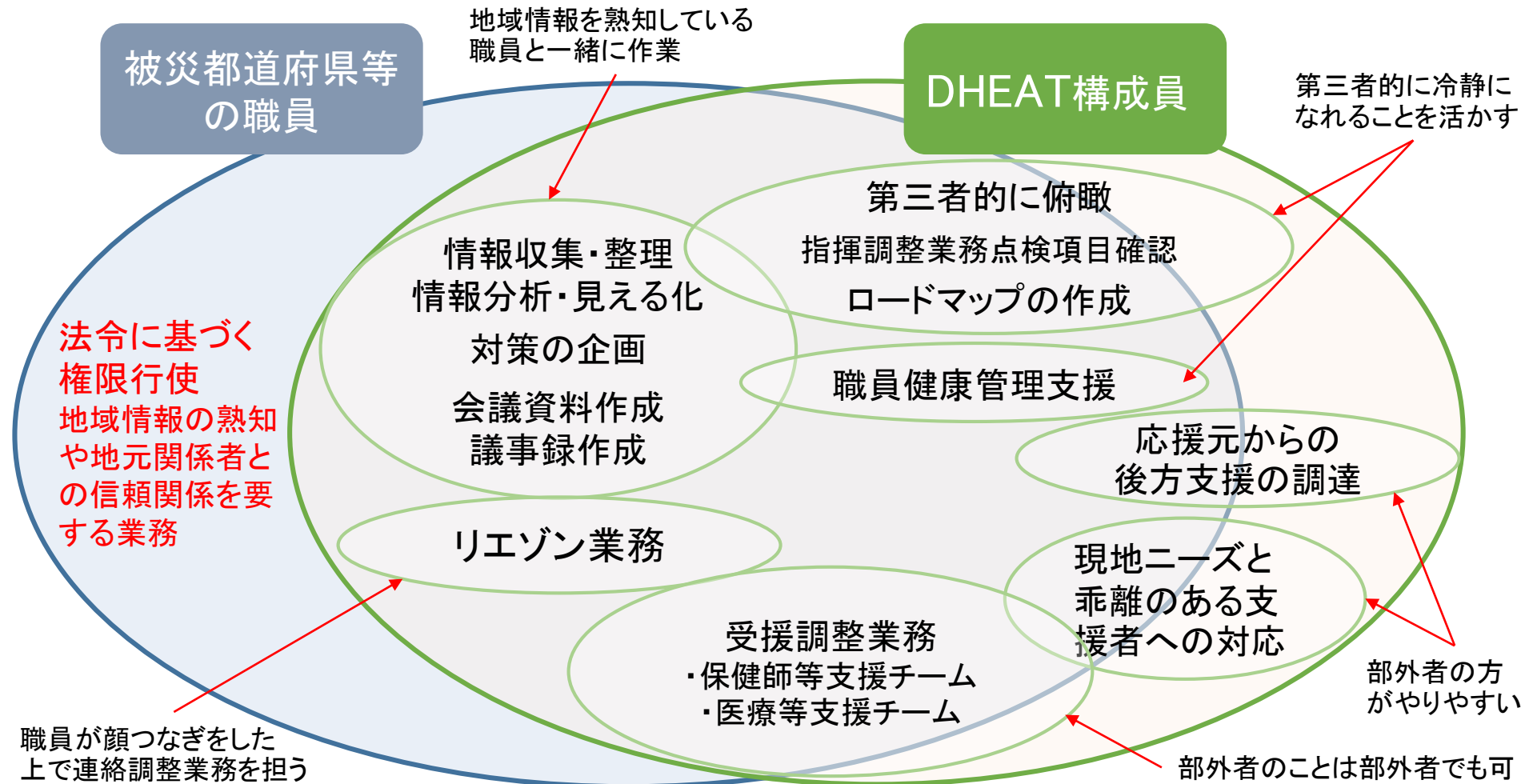
## DHEAT活動内容の内外への周知

- ・発災後、保健所長の兼務が多いこともあり、健康福祉班から各保健所へDHEAT要請について照会→**各保健所からは要請なし**（理由：**DHEATが何をするのか分からない**、今の業務に**さらに業務が重なる**）。
- ・当初、〇〇保健所がDHEAT派遣を断った理由は、**DHEAT活動内容が分からなかった**こと、支援チームの受け入れで精一杯であり、**新たなチームが来ることは負担**だったためと思われる。
- ・すでに支援に入っていたチームから、保健所職員に対し**DHEATの役割や業務内容を助言**されたことをきっかけに、保健所でのDHEAT受け入れが進んだ。
- ・DHEATを派遣すると言われても、**何をしてもらっていいか分からなかった**。受け入れる余裕がなかった。
- ・保健所職員全員がDHEAT への理解があるわけではないので、**DHEAT を受け入れる基盤**を作らないといけない。
- ・オリエンテーションのときに、（DHEAT活動要領中の）**役割分担の図**を使って役割を考えると、DHEATにしてもらいたいことが整理しやすくなるのでは。

# 被災都道府県等の職員とDHEAT構成員の役割分担

(DHEAT活動要領より)

被災地方公共団体の保健医療調整本部及び保健所の職員は、法令に基づく権限の行使のほか、地域情報の熟知や地元関係者との信頼関係を要する業務を担い、災害時健康危機管理支援チームの構成員はそれ以外の業務及び第三者性を活かした業務を担うなど、それぞれの特性を活かした業務を担う。





# 災害時に新たに発生する保健所業務において 派遣されたDHEATに期待される役割リスト

災害時には、通常業務に加えて災害対応業務が新たに発生し、保健所の業務量が増大します。特に多くの保健医療支援チームが活動する場合は、支援チームの活動調整のためのマネジメント機能が求められます。増大する業務を円滑に遂行するために、DHEATの応援要請を検討しましょう。

派遣されたDHEATは、主に下記に列挙している業務を、被災地保健所の職員に寄り添って、職員と一緒に考えながら業務に当たります。被災地保健所とDHEATが共通認識を持って災害対応業務を進めていくために、DHEATに何をしてもらいたいかを考える際や、DHEATのオリエンテーションの際に、ご活用ください。

## ①保健所（市町村）本部の立ち上げと情報共有ラインの構築の支援

- 災害のフェーズに応じた災害時の組織図を、平時の組織や防災計画等を参考に、一緒に作ります
- 連絡窓口を整理して一覧表にまとめます
- 保健所長や統括保健師のサポート役をします

## ②情報収集～情報整理・分析評価・対策の企画立案の支援

- リエゾンに行きます（保健所職員に同行、または代理）  
管内市町村      市町村統括保健師のリエゾン保健師      県庁
- 県庁や市町村の窓口役ができます
- EMIS データから医療機関被害状況を一覧表に整理します
- 所管施設の被害状況を整理します
- 避難所の情報をとりまとめて課題を抽出します
- 避難所の健康課題を整理してスタッフ検討資料を作成します

## ③受援調整の支援

- 保健医療活動チームの配置表を作ります
- 保健医療活動チームへのオリエンテーション資料の作成をします
- 保健医療活動チームの受付や、被害状況等のオリエンテーションをします
- 保健医療活動チームの活動報告をとりまとめます。

## ④対策会議の開催（統合指揮調整）の支援

- 本部長を補佐し、会議の進行役を担当します
- 会議資料を作ります
- 会議録をまとめます
- 県本部への報告様式に沿って会議録を整理します
- 会議録から課題を整理して、今後の方針を決めるためのサポートをします

## ⑤応援要請・資源調達支援

- 被災自治体職員の業務と外部支援者の業務を整理して派遣要請の可否を一緒に考えます
- 派遣要請の根拠資料を作ります
- 支援チームの配置案を一緒に考えます

## より迅速な支援

- ・実際には、要請から派遣まで1週間ほどかかっており、**もっと早く要請**できればよかった。保健医療調整本部内でも本当に**DHEAT**が必要なのか判断しかねていた。
- ・保健所は発災後かなり混乱しており、2、3日は泊まり込みで職員（特に保健師）の疲弊も大きかったので、DHEATには**初動の時期に入って**、先を見据えた助言、調整活動をしてくれたら助かると感じた。
- ・**早くがいい**と思う。空振りでもいいからということであれば、**早くに**お願いしたい。
- ・**保健医療活動チームが支援に入るようなタイミング**でDHEATにも入ってもらって、動かしてもらうことができれば。
- ・**発災後すぐに**DHEATが来ていれば、適切な受援体制が構築できていたのではないか。

## 保健所だけでなく、県庁への支援

- ・保健医療調整本部にはDHEATを要請しなかったが、DHEATが**クラスターミーティングの運営**に携わってもらえたら助かったかもしれない。
- ・今回、県庁にDHEATは入らなかったが、先日訓練をしてみて、**県庁にも現地にもDHEATがいて**、情報共有するのが理想形と思った。



## 個の支援、チームとしての支援

- ・標準化を突き詰めなくていいのではないかと。溶け込みであるべきなど、こうであるべきという標準化より、現地の状況に応じた**柔軟な動き**を求めないといけない。
- ・**チームでの活動**が有り難かった。
- ・**現場に寄り添って柔軟に活動**する、これが理念ではなかろうか。
- ・あるDHEATの**ロジ(事務職)**はすごかった。いつの間にか情報を集めて、ロードマップと評価を作ってもらっていた。自分たちの考え及ばないところまで見て作ってもらった。
- ・**ロジ**が優秀で、大変助かった。
- ・医師、保健師、薬剤師、栄養士はそれぞれの専門性を発揮しようとするが、**全体を見て**そのフェーズで**DHEATに求められている業務を見極める**役割が大事なのではないかと。
- ・**チーム**として、そこに**溶け込んで**一緒に汗を流し、やって欲しいことをやってくれる、**両方が必要**。

## 被災自治体が望む活動内容

### 先を見越した助言や提案

- 災害対応経験のある隊員がありがたかった
- 各フェーズで起こりうる事象に対する予防的視点での助言が有効だった

### 提案型の支援

- 指導・指摘 × 「〇〇すべき」、「これは当たり前」
- 指示待ち △ 「何しましょうか」、「何でも言ってください」
- 提案・助言 ○ 「〇〇が必要みたいだから私たちが案を作りましょう」、  
「こういうまとめはどうでしょうか」

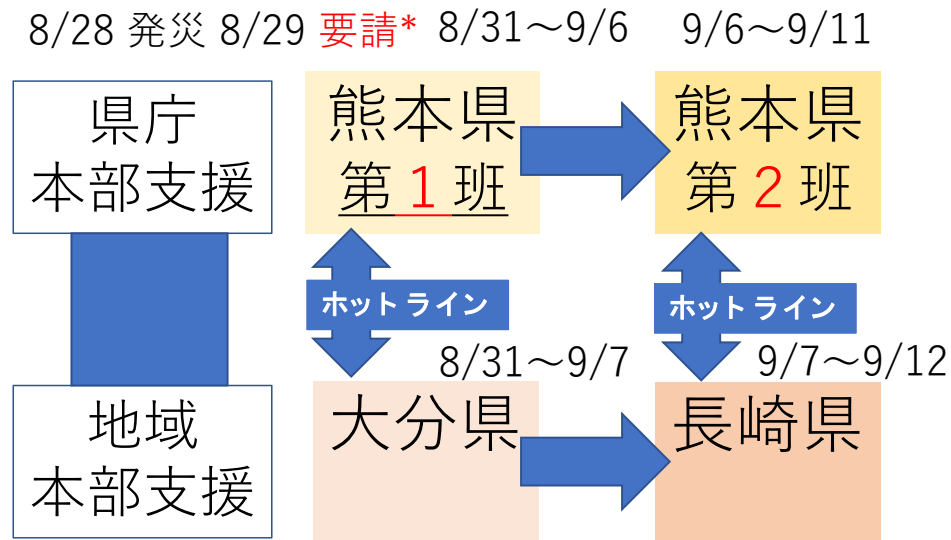
## DHEAT装備品の標準化、特に情報通信機器

- ・各DHEAT、自己完結型で装備品を持ってこられていたが、その内容が**各自治体で差が大きかった**。例えば、通信のできるパソコンを1人1台、プリンターも持参したDHEATから、通信のできないパソコンを1チーム1台、プリンター持参していないDHEATに交代した時に、これまで回っていた業務が回らなくなった。
- ・チームによっては、ネット環境が違ったり、プリンターも保健所のものを利用されたところもあった。
- ・他の支援チームは入れ替わっても、装備品は全て完璧に揃っていたが、DHEATは**自治体によって少しずつ異なっていた**。

## 被災自治体が有り難かった活動

- ・ 家庭訪問を行うため、**必要チーム数**を出す必要があったが、その数を**DHEAT が割り出してくれた**のはとても助かった。
- ・ 現場でいろんなチームが書いた**訪問記録をきれいにまとめてくれた**。
- ・ 町の統括保健師が混乱しており、保健所も十分に支援できていかなかったなか、通訳役に入ってもらい、**町の統括保健師の業務整理**を行ってもらった。
- ・ 災害の段階を踏まえ、振り返りをしつつ、**この先はこれが必要になるのでは**、と、橋渡しをしてくれた。
- ・ **寄り添う気持ち**を強く感じた。**バックアップの姿勢**だったのでお願いしやすかった。
- ・ **第3 者的な視点**で**できているところとまだまだの部分**を言ってもらえて、ゴールが見えるようで心強いと思う。

# 令和元年 8 月佐賀豪雨 DHEAT 応援派遣（2 回目）

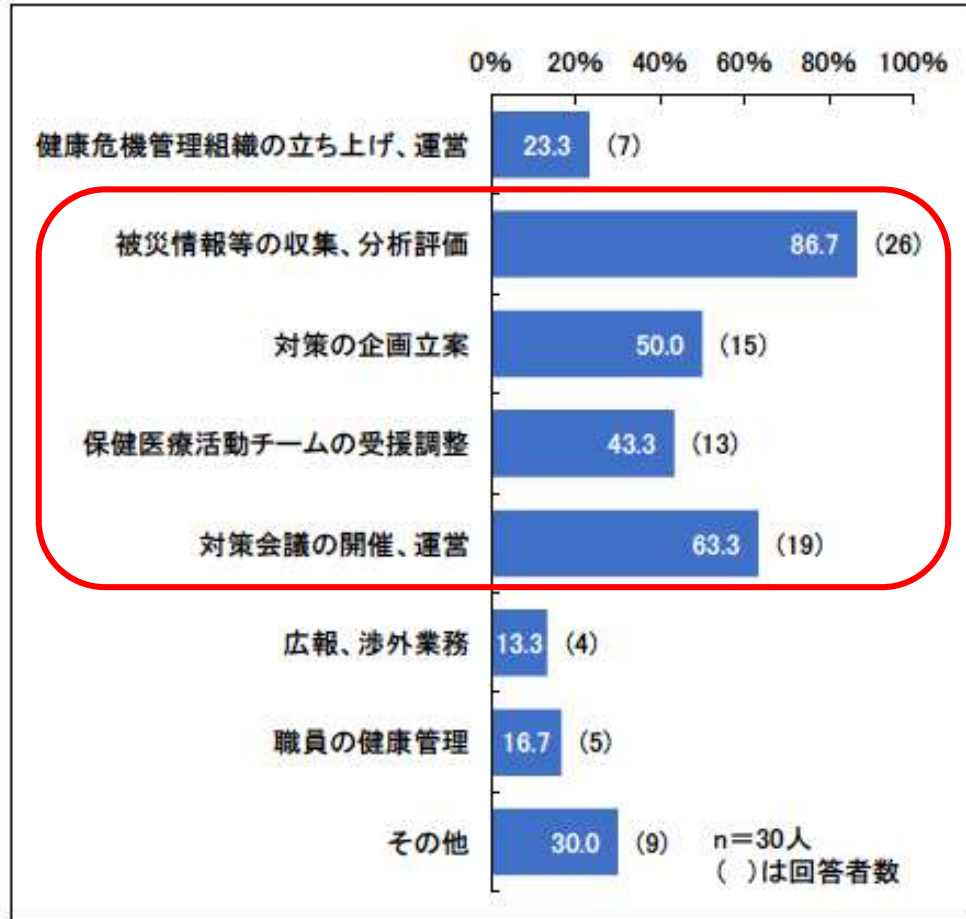


令和元年11月 佐賀県保健医療調整本部活動の振り返り会より

- ・ 発災**2日目**に佐賀県より**要請**を受け，発災**4日目**にDHEAT 2チームが，**県庁**（保健医療調整本部）と**保健福祉事務所**（現地保健医療調整本部）の**両方にはいる**ことができた。
- ・ DHEAT **2チーム間のホットライン**が構築でき，本部と地域本部の**迅速な連携**に寄与できた。
- ・ DHEATは，地元自治体と関係省庁および支援団体等との**対策会議**（「保健医療調整本部会議」）開催時（**発災2日目**）までには被災地入りすべきではないか。
- ・ **本部支援のDHEAT**は，現地本部支援のDHEATの業務量を把握し，**追加支援の検討**を行うべきだったのではないか。

## DHEAT編 調査結果 (4) 活動内容・活動形態

### 主な活動内容 (複数回答)

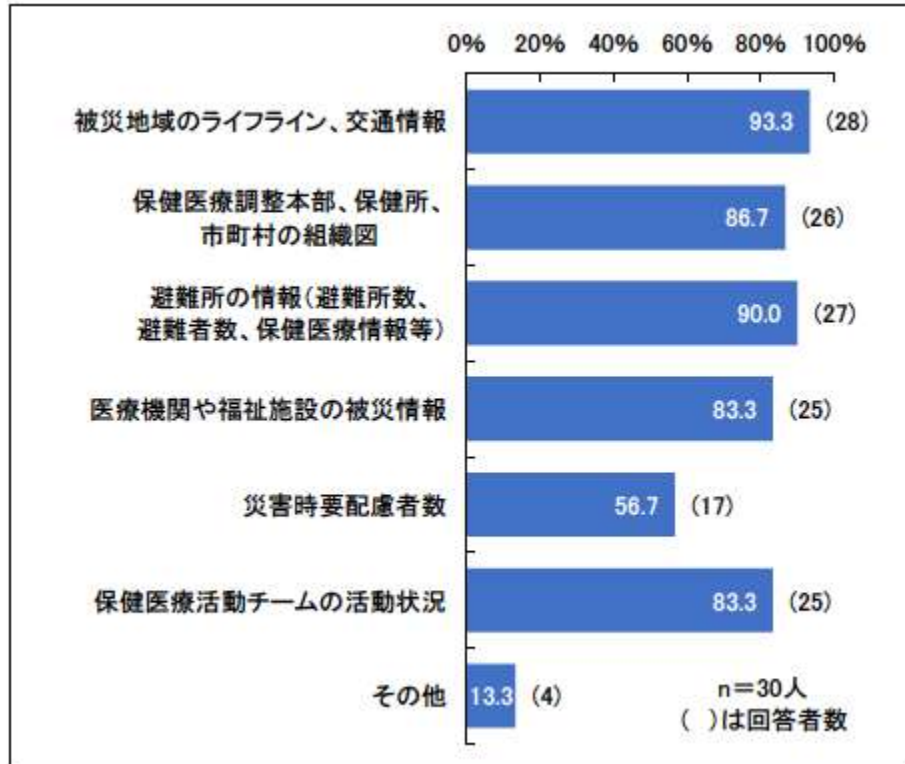


- 「情報収集・分析評価」の活動が一番多く、「対策会議の開催運営」、「対策の企画立案」、「受援調整」などの総合的なマネジメントとともに、「要配慮者支援」、「戸別訪問」などの個別活動まで、幅広く活動が行われていた。
- 活動形態は、「チームの一員としての活動」もしくは「状況に応じチームもしくは個人で活動」のいずれかであった。

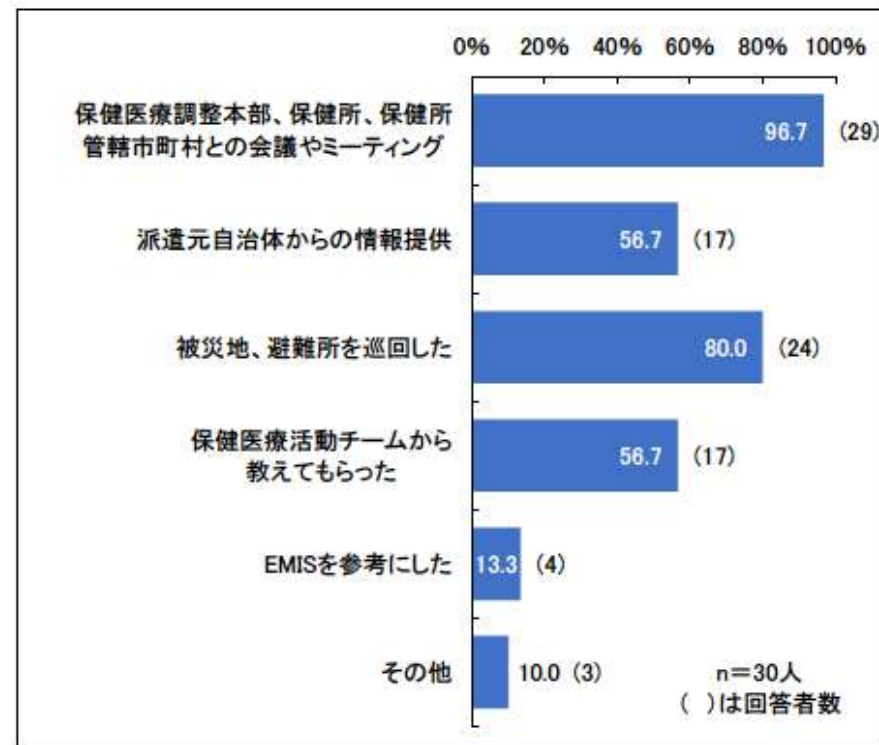


# DHEAT編 調査結果 (5) 情報収集・分析評価

活動に必要な情報の種類 (複数回答)



活動に必要な情報の収集方法 (複数回答)

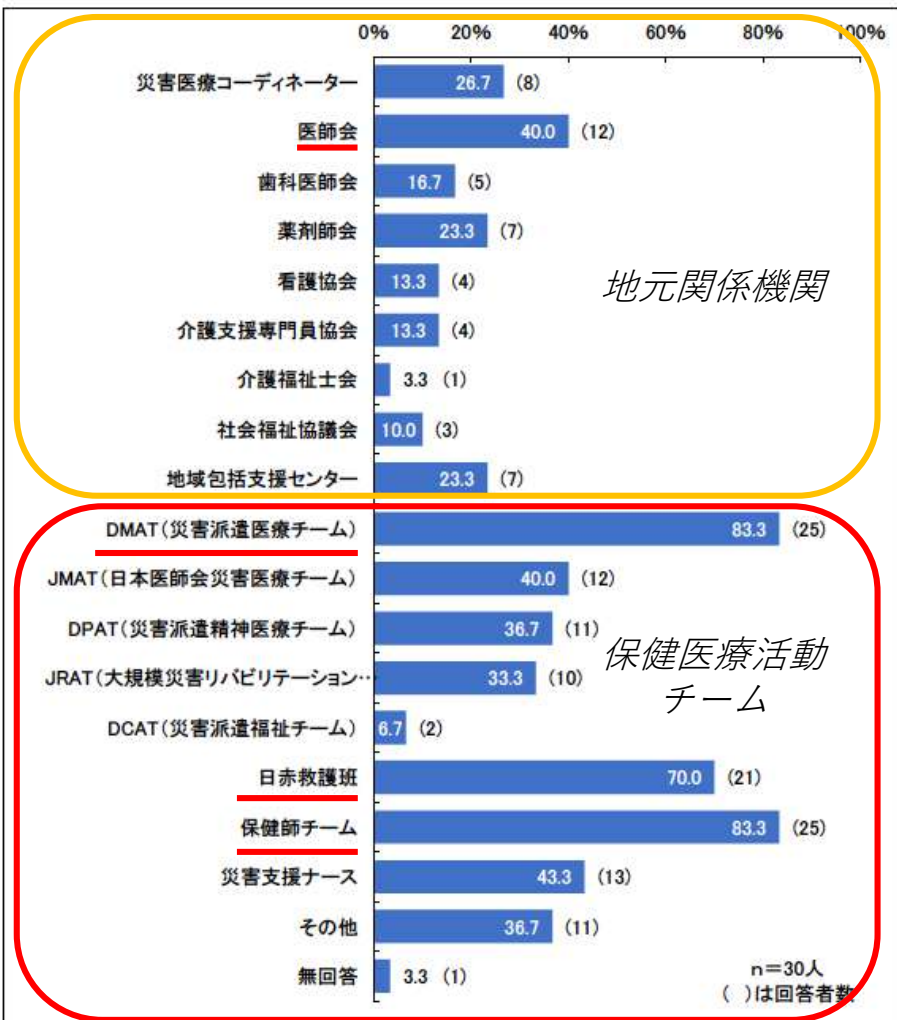


- ・被災状況、避難所情報、要配慮者情報など幅広い情報を必要とし、会議やミーティング、保健医療活動チームから情報収集を行っていた。
- ・D24Hと連携した情報支援システムの構築とともに、情報収集やデータ整理等の業務を含む、ロジスティクス要員の必要性が挙げられる。

# DHEAT編 調査結果 (5) 保健医療活動チームとの連携

関わりがあった保健医療活動チーム等 (複数回答)

一番連携を必要とした保健医療活動チーム等



- DMAT、保健師チーム、日赤救護班との関わりが多かった。
- 特にDMATが一番連携を必要としたチームとなっている。
- 地元の関係機関よりも保健医療活動チームとの連携が多く認められる。
- 保健医療活動チームとの連携事例の蓄積と共有、共同での研修の実施などが必要である。

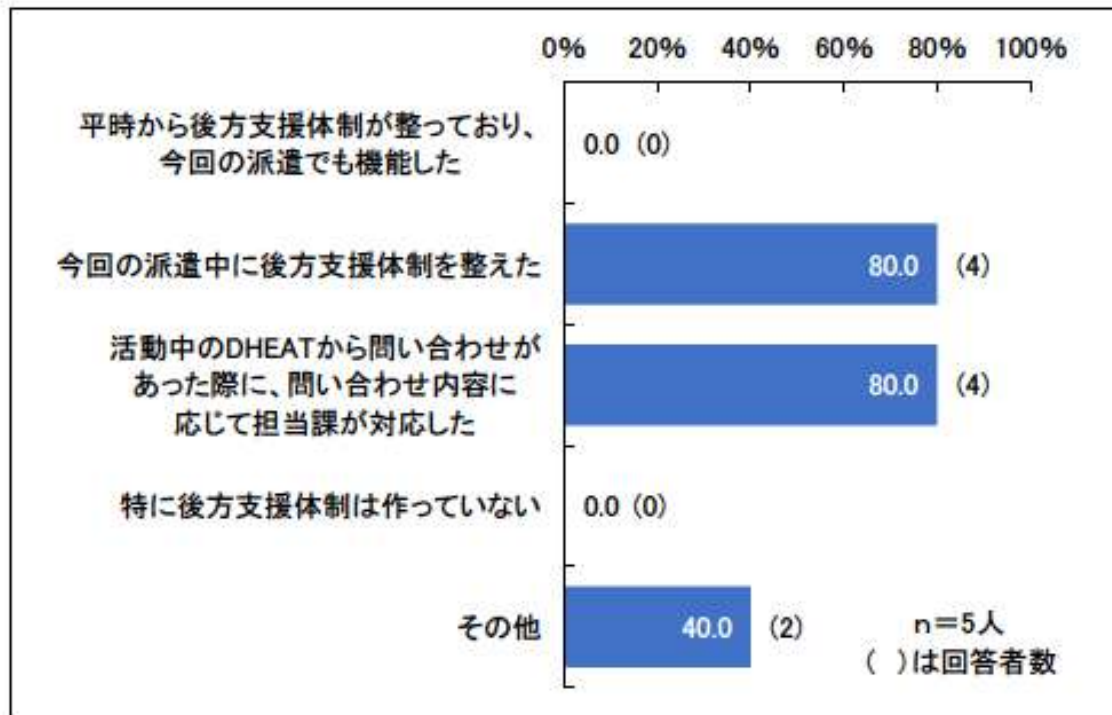
## DHEAT編 調査結果 (8) DHEATのメンタルヘルス

- 派遣前に回答者の**60%が不安**を感じていた。その理由として、「初めての派遣」、「現地での活動内容が決まっていない」、「活動のイメージが湧かない」、「任務上のプレッシャー」、「持っている専門知識と活動内容の乖離」などが挙げられた。
- 活動中に**心身の不調**を感じた回答者は6.7%だった。不調を感じた原因として、「睡眠不足」、「業務上のプレッシャー」、「人間関係」、「感情的・批判的な言動」が挙げられた。
- 応援活動の準備から終了後まで、それぞれの段階における**不安やストレスへの対処法**（自己管理、チームとしての対応、所属の支援等）について、DHEAT研修で取り上げることが必要である。



## 派遣元連絡窓口編 調査結果 (2) 後方支援体制

活動中のDHEATに対する後方支援体制  
(複数回答)



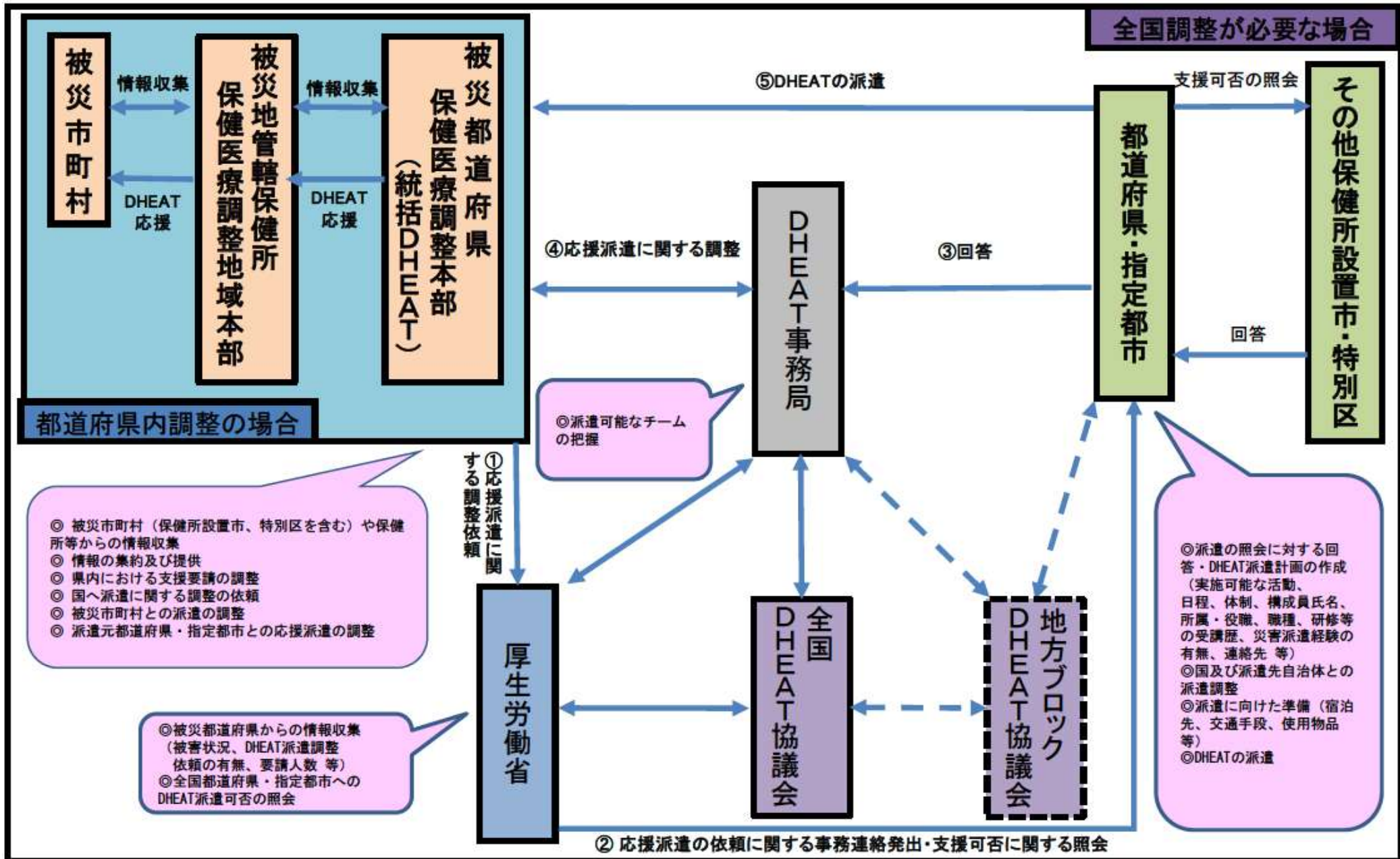
(その他)

- ・ LINEを通し、第1班職員が後続チーム職員へ助言、またDHEAT応援派遣経験職員が助言し、支援した。
- ・ 前回派遣時の課題を踏まえ支援体制を整えた。

- 今回の派遣中に後方支援体制を整えた自治体が多く、活動中のDHEATから問い合わせがあった際に担当課が対応する形での後方支援が多かった。
- DHEATの事務作業負担軽減のため、報告書等の資料作成は後方支援チームが作成するなど後方支援の具体例が挙げられた。
- 後方支援の中心となる本庁内では、DHEATの制度や役割を理解している職員が保健所に比べて少なく、後方支援を担う人材が不足していたという意見も見られた。
- 後方支援についてマニュアル化と具体例の共有が有用である。



# (別添2)災害時健康危機管理支援チームの要請・派遣スキーム

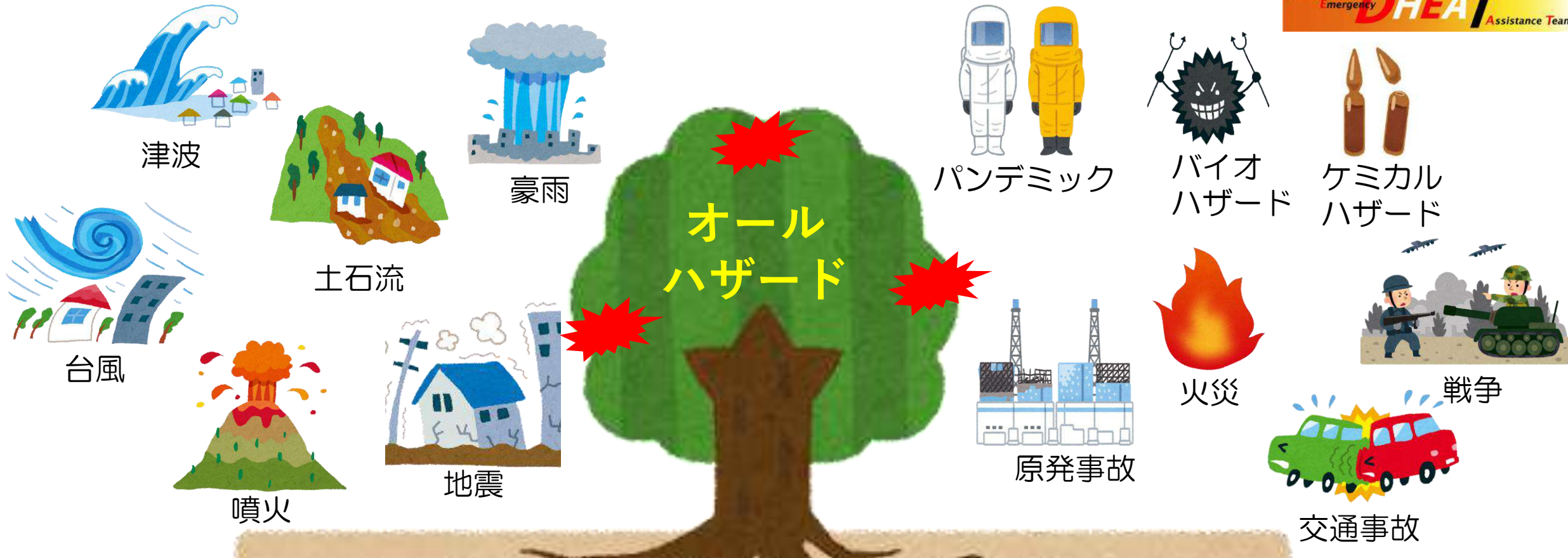


# パンデミック時に、DHEATは役に立たない？

令和3年7月および8月の大雨災害時に対応を行った保健所担当者を対象としたインタビュー調査

- ・ **平時の災害対応の研修や準備**において、保健所内で**組織横断的に班体制を作って**対応するという経験が、**コロナ対応**を進めるにあたって**役にたった**。
- ・ **DHEAT研修をきっかけに**全国の保健所でICSやCSCAを参考に**初動体制の構築**について繰り返し訓練が行われていたことが、今回の**コロナ対応体制に応用**された。
- ・ コロナ対応では、医師会や医療機関等の関係者と連携する機会が多いことや、行政内部でも本庁や上司との連携を必要とすることから、**コロナ対応をとおして構築した縦と横の連携と顔の見える関係**が、今回の**災害対応にも非常に役に立った**という意見があった。





ICS・CSCAに基づく、組織内マネジメント体制の構築

地域のステークホルダー（縦と横）との  
信頼関係、顔の見える関係

情報収集・共有システム

人材育成

- DHEATはどんな事態にも対応する、受け止める覚悟。  
(ICSは、**調和**をとることを重視したマネジメントシステム)
- DHEAT自身も**変化**しながら、**楽しみながら**、**継続**していくこと。

**Table 1.2.1 Summary of change in approach through Health EDRM (7)**

From	To
Event-based	→ Risk-based
Reactive	→ Proactive
Single-hazard	→ All-hazard
Hazard-focus	→ Vulnerability and capacity focus
Single agency	→ Whole-of-society
Separate responsibility	→ Shared responsibility of health systems
Response-focus	→ Risk management
Planning for communities	→ Planning with communities

「WHO Guidance on Research Methods for Health  
Emergency and Disaster Risk Management」  
WHO 2021